

「生徒と向き合う」「信条に」

いじめや発達障害などで学校に行けない人たちのための高等専修学校「佐賀星生学園」（佐賀市多布施）が今春、開校から2年を迎える。さまざまな事情で学校への足が遠のいてしまった生徒たち。入学時は自己紹介もままならなかった生徒もいたが、次第にうち解

け、笑顔で学園に通うようになった。校長の加藤雅世子さんは「みんな理解されたいがっている。大切なのは一人一人と正面から向き合うことです」と話す。

佐賀星生学園は、登校する日が週5日と週1日の2コースあり、3年で高校卒業の資格がもらえる。高校を中退しての中途入学も受け入れ、現在は15〜38歳の男女82人が通う。

開校2年を迎える佐賀星生学園校長 加藤 雅世子さん (54) = 佐賀市天祐

特徴は、社会性をつけてもらう教育。生徒の大半は不登校経験者で「自己主張しすぎたり、しなすぎたりと、意思伝達が苦手」という。そのため、相手の誘いを断る方法など対人関係の築きかたを実演で指導。歌やダンス、美術作品の創

作を通して言葉を使わない悪口を言われるかも…生徒にとって人付き合いは非常に難しい」と加藤さん。キルの習得を目指す。仲間外れにされるかも、

「最初はしりとりやビンゴなどゲームで心を開いても

「社会に出るために、高

「体調子はどう」。放課後、校舎の入り口で仲間

「どんな子にも輝く未来があり、掛け替えない宝物を持っている。卒業を新たなスタートに、胸を張って次のステップに進む。そんな生徒に育ってほしいですね。」

社会生活への適応支える



作品展の会場で「生徒たちの成長ぶりに涙が出そうです」と話す加藤雅世子さん

らいます。少しずつ、コミニケーションのすべを学んでほしい」

「入学当初は、みんな心を開いてくれない。それで

「渡辺展彬」

さが人 2013